

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行
No.

54

発行日：平成30年3月15日(木)
(2018年)

地域企業紹介 54

株式会社むつみ工業

「誠意と感謝」の気持ち大切に 特殊鋼材溶接分野で日々前進!!

特殊鋼材溶接・溶接補修を主業とする株式会社むつみ工業の座間社長を相模原市中央区田名の本社工場に訪ねました。

同社は、鋼材や鋼板などを加工する鍛圧機の溶接修理を専門とし、汎用機械器具製造業の各種機械・同部品製造修理業を営んでいる。鍛圧機とは、ハンマーなどの鍛造機やプレス機などの圧造機の総称で、鋼板などをたたき金属成形を行う大型機械だ。自動車のボディー形成や金属加工に欠かせない加工機械であるが、時には鋼板へ数百トンの圧力で鍛圧するため、鍛圧機には非常に大きな負荷がかかり、ラムスライドと呼ばれるハンマー部をはじめ、筐体やソーブロックと呼ばれる土台に至るまで、割れ・ヒビなどの破損が生じ、定期的なメンテナンスが欠かせない。特にラムスライド部・ソーブロック部は“特殊鋼材”で製造されているが、新品に交換してから数か月程度で破損する為、金属加工メーカーは定期的に部品の補修を行っているところが多い。また、割れや破損した特殊鋼材の大型部品は難接合素材であるため、接合には高い技術が求められる。さらに補修した部品がどれだけ長く補修後の使用に耐えられるかということがポイントとなる。同社では、これまでの経験や数々の実績から、国内でも最も技術的に優れていると判断した溶接棒を選定し採用している。言うまでもなく、補修溶接は製造溶接と異なり、必要な施工条件を整え管理することがなかなか難しく、単に溶接材料の機械的性質や成分の同一性のみに基づいた選定では必ずしも十分な信頼性・安全性を確保した溶接結果を得ることができないことが、補修溶接の大きな特徴となっている。このように高い技術力が求められる補修溶接において、むつみ工業は独自の溶接技術を駆使し、大型産業機械である鍛圧機の補修ができる全国でも数少ない企業の一社となっている。

補修溶接に大事なことは「壊れた原因をとことん追求すること」、その分析結果を基に職人の知識や技術・ノウハウを駆使して、補修品を少しでも長持ちさせるように仕上げること。当社による溶接補修は、品質の高さを徹底的に追求し、他社に比べ1.5倍から2倍高い強度を実現しており、それが当社の最大の強みとなっているのだと座間社長は語る。

株式会社むつみ工業
代表取締役 座間 洋行（ざま ひろゆき）
所在地：相模原市中央区田名 4116-3
従業員数：10名 売上高：8000万円
事業内容：特殊鋼材溶接、溶接補修

座間社長は相模原市田名で生まれ育った根っからの相模原っ子。高校卒業後、社会に出て最初の仕事はトラックの運転手。しかしながら、元来オートバイが大好きでバイク屋さんになりたかった座間社長は、日頃からバイク部品を造ったりする中で、結局行き着くところは溶接だったとのこと。一念発起し、淵野辺の職業訓練校で溶接の知識や技術の基本を学んだ。同校卒業後は市内の大手プレス機械開発製造販売会社に入社した。当時、溶接技能オリンピックで世界チャンピオンになったことのある腕のいい親方(当時の上司)に追いつきたい一心で技術向上に励んだそうだ。そのような中、別部門への配置転換などをきっかけに同社を退社した。その後、別の溶接業者に入社、特殊鋼材溶接技術力などが認められ工場長に就任するまでに至ったが、会社方針などに疑問を感じ退社することになった。

そんな座間社長が「むつみ工業」を創業したのは2003年27歳の時である。父とは別の道を選択するも社名は実父が経営していた「むつみタイプ印刷」から取ったそうだ。最初のお子さんが生まれたばかりで、とにかく食べていくために“がむしゃら”に働いた。ただ、創業直後で仕事はたくさん欲しかったが、義理を欠くとして、お世話になった前勤務先の取引先からは仕事を取らないように決めていたと当時を振り返る。また、何と言っても苦しかったのはリーマンショック。会社の通帳残高が数万円しか

なくなったときは、さすがにまいったそうだ。

同社は平成27年度補正ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金(ものづくり補助金)では、「鍛圧機の難溶接材補修における作業効率大幅改善と技能継承の促進」を計画事業として採択された実績を有する。溶接補修分野における作業効率と品質向上は勿論のこと、職場環境の改善とともに職人が「カッコいい」と言われるようにしたい。いわゆる3K業種(きつい・汚い・危険)のイメージを一新することを含め、減少傾向にある溶接技能工の育成にも前向きに取り組んでいる。

座間社長の座右の銘は「日進月歩」。日に日に絶えず進歩していくことを常に心の中に意識しているという。「溶接業界における環境や技術が大きく進展していく中、当社の抱える課題も多い。当社は現在、溶接の補修屋でリメイクはするがメイクはしていない。これからは雇用を創出していくことを含め、できれば“メーカー”を目指していきたい」と熱く語る。さらに将来は年配者向けのDIY(自分で作ろう)塾や子供向け工作教室なども作りたいと座間社長の夢は果てしない。

ものづくりの「キーテクノロジー」である溶接技術、その中で特殊鋼材溶接分野の専門企業であるむつみ工業は、これからも「誠意と感謝」の気持ちを大切に日々前進していくことだろう。

「日本の工具を海外へ！」

ケー・ティー・エムツール株式会社



30万点を越える工具類を扱うケー・ティー・エムツール株式会社の北村佳久社長にお話を伺いました。

北村社長は、工作機械・機械工具等の商社に19年間勤務し、同社では取締役も務めていました。一昨年12月に前職の海外部門を承継する形で独立し、同社を設立されました。

ケー・ティー・エムツール社の主な顧客は、フィリピン共和国に進出した日系企業です。特に、自動車・二輪車部品メーカー

から、生産時に必要となる設備や特殊工具、消耗品など多岐にわたる工具類を受注し、日本から現地に向けて輸出する事業を行っています。ドリルやエンドミルといった切削工具はもちろんのこと、顧客からの要望であればネジ1本の注文にも応える柔軟できめ細やかな対応力が、同社の大きな強みとなっています。

同社で取り扱っている製品は30万点を優に超え、この業界は一人前になるまでは10年かかると言われるほど幅広く、奥行きも深い世界です。

また、日々の業務では、現地駐在員との連携や輸送会社等との折衝など、輸出事業特有の業務も発生してきます。近年経済成長著しいフィリピンには多くの日本企業が進出しています。同社は日本とフィリピンをつなぎ、海外進出した製造業を下支え

する重要な役割を担っています。

現在は日本国内での顧客開拓にも取り組む一方で、すでにインドに所在する日系企業への輸出も始めるなど、さらなるグローバル化を果たしていくことも目標に掲げています。



北村社長

ケー・ティー・エムツール株式会社
SIC-1 209号室
電話番号 042-703-0245



What is “Incubation”?

SICの特徴ある事業とその担当者の紹介を通じ、インキュベーションセンターとは何かをお伝えしています。今回は「カイゼンスクール」を紹介します。

カイゼン・スクール

カイゼン・スクールは、カイゼン活動の推進に不可欠な「人づくり」の支援を目的に2013年より開催しています。カイゼン活動とは、「徹底的なムダの排除を通じて、原価低減と品質向上を目指す活動」であり、それによって生産性や収益性の向上を図る活動です。本スクールでは、①現場診断、②現場実習、③事例演習を特徴とした、約3か月間・全7回にわたるカリキュラムをご用意しています。

まず、開講に先立ち、講師による現場診断を実施しています。この診断を通じて受講生ごとに課題を設定し、スクールと並行してカイゼン活動を実践していきます。また、先進的なカイゼン活動に取り組む他社工場での現場実習も実施しており、普段他社の現場を見る機会のない受講生にとって新鮮かつ学びの多い実習となっています。さらに、講義では事例演習を通じたグループワークも取り

入れており、チームでカイゼンに取り組む疑似体験をして頂いています。全体を通して、「座学を受けて終わり」の研修に留まらない、「実践」を意識した内容となっています。

講師には、トヨタグループで40年以上の間カイゼンを実践してきた株式会社カイゼン・マイスターを迎えています。知識や経験が豊富なだけでなく、人づくりに対する熱い想いを持つマイスターとともにスクールを運営してきました。

これまでの5年間で23社70名の皆さまに受講頂き、有り難いことに受講企業の約3分の1がリピート受講です。私たち自身も毎年このスクールを“カイゼン”させながら、今まさに次年度の企画・検討を進めています。

担当IMから一言

カイゼン・スクールに込める想い

カリキュラムは約3か月間という短い期間ですので、スクールだけでカイゼンの手法や考え方のすべてを習得することは難しいかもしれませんが、受講生や受講企業の皆さまにとって、このスクールがカイゼン活動の推進・定着に向けた“きっかけ”になってほしいという想いを込めて開催しています。

受講期間中、受講生が実際にカイゼン活動に取り組む過程では、大なり小なり必ず何かしらの課題や悩みに直面されます。スクールの担当IMとして、講師とも連携しながら、受講生が壁を乗り越え、カイゼン活動にやりがいをもって取り組んで頂けるようなお手伝いをしていきたいと考えています。

SICのインキュベーション・マネージャーとして

昨年約5ヶ月間の研修を経て、日本ビジネス・インキュベーション協会認定のインキュベーション・マネージャーとなりました。地域の

産業や雇用を支える企業・起業家の皆さまのお力になれるよう、「笑顔絶やさず、前向きに」をモットーに、これからもIMとしての日々の業務に邁進していきたいと思っています。



事業創造部
樽川 裕紀

福島県出身。東京の大学で地域・中小企業金融について学び、卒業後は地元の金融機関に入社。その後、東日本大震災の復興支援に関する創業支援や地域支援に取り組むコミュニティ財団勤務を経て、2016年SICに入社。現在は、カイゼン・スクールのほか、南西サポート、ロボット導入支援事業などを担当している。

釜めしやあつ

「釜めしやな川」は、城山かたくりの里から城山湖に向かう道沿いにあります。昼は十数種類の釜めしランチ、夜は宴会コース（要予約10名から）料理を楽しめます。本日は、五目釜めし、甘栗釜めし、そして真鯛の釜めしをいただきました。蓋を外すと広がる釜めしのおい、メニューごとに工夫された秋田米のうまみを活かした味付け、そして居心地の良い和室。50年の伝統の味に食の幸せを感じました。（稲垣）

相模原市緑区川尻4483番地
TEL.042-782-2326
<http://www.kamameshi-yanagawa.jp/>

営業時間 11:30～15:00(14:00ラストオーダー)
(10名様位からのご予約のお客様17:00～21:00)
定休日 毎週月曜日(祝日の場合は翌火曜日)



SIC
食のさんぽ道

真鯛釜めし 1620円

平日のランチセット
(小鉢、茶碗蒸し、漬物、味噌汁、水菓子、ドリンク付)

五目釜めし 1300円(ランチセット)
(海老、帆立、鶏、椎茸、鶏卵)

SIC 経営塾

「ニュービジネスリーダー」育成セミナー

2018(第17期) 塾生募集!

「時代に打ち勝つ『経営力』が求められている」

おかげさまでSIC経営塾は、17年目を迎えます。本塾では、先端的な企業のケーススタディーを通じ、経営の理論と実践を学ぶとともに、塾生自らが事業構想を再構築することにより、「真の経営力」を養成することを最終目的としています。



▲ 講義

講義

最先端の経営理論を学びます。

先端企業経営者の実体験や様々な先進的な取り組み事例を通して最新の経営理論と実例を学び、自社の課題に置き換えて検証します。



▲ ディスカッション

討論

塾生、コーディネーターとの討議を重視します。

課題図書、事例研究を基に、異業種の方々とこの討論が自社を見つめ直し、自社の事業構想を構築する良い機会となるでしょう。



▲ 2017年 塾生・講師

事業構想の再構築

最終ゴールは自社の事業構想の再構築です。

実証的な研究や討論を通じ、自社を客観的に見つめ直し事業構想を策定し、自社における「NEXT STAGE」を考えます。

2018.3 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

3月23日(金)	サガツナビ「ジョブミーツ」15th
4月20日(金)	サガツナビ「ジョブミーツ」16th
5月13日(日)・27日(日)	2018年 アントレ・インターンシップ 事前説明会
6月 2日(土)～12月12日(水)	2018年 SICリーダー塾(全10回)
6月 9日(土)～10月26日(金)	アントレ・インターンシップ
6月16日(土)～平成31年2月9日(土)	2018年 SIC経営塾(全11回)



入居企業を募集してます。

SIC空室情報(平成30年3月15日 現在) ※お気軽にお問い合わせください。

部 屋	空室数	賃料/月額 (共益費込・消費税抜き)
SIC-1 ○スモールオフィスA(23.6㎡)	2	78,700円
SIC-2 空室はありません	-	-
SIC-3 空室はありません	-	-

2018年SIC経営塾開催にあたって

「社会に必要とされる会社とは何か」、「会社という組織体を発展させながら会社に関わる全ての人の幸せとは何か」を突き詰めていく経営の本質に向き合う姿勢が、今まさに企業経営者に求められています。SIC経営塾は激しく変化する経営環境において、様々なビジネスに取り組まれている皆様が共に学び、考え、成長していく「場」です。

2001年の開講当初からコーディネーターを務めさせていただき、今も修了生とは良いお付き合いをさせて頂いています。2018年度もSIC経営塾が開催され、また新たな受講生の方々と出会えることを楽しみにしております。

コーディネーター 中村 浩

公益財団法人 相模原市産業振興財団 事務局長
中小企業診断士

修了生の声を抜粋しご紹介します。

- ・現場重視で業務に取り組んでいたが、違った視点で業務を見直すとても良い機会になった。
- ・自分達だけでは気付かなかったことを知る良いキッカケになった。学んだことを活かして、現状を分析しどのようにしていくべきかを今後も考え実践していきたい。
- ・経営塾でなければ、他社のプレゼンを聞く機会などなかった。参考になる事を多く学べ、自社の今後の取組に生かしたい。

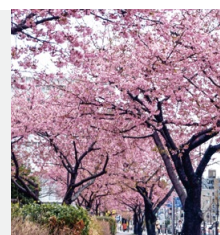
応募要項

開催期間	平成30年6月～平成31年2月
会 場	さがみはら産業創造センター(SIC-2)
募集人員	15名
対 象	経営者または経営幹部
受講料	200,000円 (税抜き・1泊2日の合宿費用を含む) ※受講料の割引制度があります。 詳しくはお問い合わせください。
問合せ先	株式会社さがみはら産業創造センター (担当: 事業創造部 片山)

詳しくは、SICホームページをご覧ください。
<http://www.sic-sagamihara.jp>

編集後記

春が来ました！写真はいつも言葉だけでお伝えしているSIC近くの河津桜です。去年はこの時期、葉桜になっていましたが、今年は、満開のアーチです！橋本駅からSICまで歩くとこのアーチを通ります。いいことありそうですね。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <http://www.sic-sagamihara.jp/>